

＊ ＊ 一岩手県立博物館テーマ展『比爪—もう一つの平泉—』パンフレット18頁—

3 比爪—奥州藤原氏第二の拠点— ③ 外縁遺跡

◀ 蓮華廃寺(紫波町赤沢字向井他)(2) ▶

「蓮華寺」の名称は、向井に所在した仏堂(阿弥陀堂か?)のみを指す可能性もありますが、ここでは、白山神社、薬師堂までも含んだ寺域全体を総称して「蓮華寺」と仮称しておきます。「蓮華寺」は、広い寺域の中に、金堂と複数以上の堂や鎮守社、僧坊などが総合的に配置される寺院とするのが妥当です。「蓮華寺」が廃寺になった年代は不明ですが、紫波町史では「近世以前に廃寺になったものようであるが・・・」としています。白山神社南麓(薬師堂の北側)には、板碑群が所在していますが、その中に、鎌倉時代後半の紀年銘が複数基以上あり、鎌倉期までは求心力を有する信仰の場であったことは確かです。また、薬師堂の400m西には、直接岩に梵字を刻んだ、正和元年(1312年)銘の磨崖碑があり、この付近まで寺域であった可能性を指摘できます。

◀◀◀ 3月～4月行事予定のお知らせ ▶▶▶

3月20日 (水曜日)	第100回月例発表会 ※ 最初に、参加者全員で100回記念の集合写真撮影を行います。	午後7時から午後9時まで 発表者：平井和夫 テーマ：樋爪館は移転したか？ ※ 後半は、100回の節目を迎え、これまでの思い出や、これからのあり方を、皆で話し合う茶話会(会費300円)を行います。
4月7日 (日曜日)	平成31年度定期総会	日時 平成31年4月7日(日)午後2時から 場所 赤石公民館 講義室 ※ 総会終了後、会員交流会(参加費1,000円)を開催します。
4月17日 (水曜日)	第101回月例発表会	午後7時から午後9時まで 発表者：高橋敬明 テーマ：鎌倉時代の紫波 6 発表者：阿部朋巳 テーマ：ハスの植物学的特性

◉◉◉◉◉◉◉◉◉◉ 設立10周年記念行事 ◉◉◉◉◉◉◉◉◉◉

- ☆ 樋爪昌之様が送ってくださった新聞コピーに、曾祖父の與兵衛様の追憶談が掲載されています。それには、「明治九年夏、明治大帝が本道御巡幸の折、開拓使函館支庁詰めとして勤務していた関係で行在所たる浄玄寺に昼夜詰めきり諸用を達していたという。」とあります。残念ながら新聞名・日付けが不明ですが、文面からは大正末期頃の発行と推測され、與兵衛様の父上様が開拓使御用達であったことが分かります。「明治大帝が御使用のお箸と什器を家宝として仰ぐ」の見出しもあり、ご先祖を偲ぶ縁と思います。
- ☆ 樋爪義信様から、「会報90号に『北辰一刀流千葉重太郎の弟子に、因幡鳥取藩の樋爪弥五郎がいる。』との記載がありましたが、弥五郎は当家の先祖と思われる。」という、お便りがありました。維新勤王隊として東征軍に参加し千葉道場に撃剣の指南をうけに入門。ルーツは解らないが家紋は「丸に菊座橋」、地域における姓の初見は1550年に見られるとのこと。

現在の体調が維持できれば参加の予定としておられますが、ぜひ参加できますよう御祈念申し上げます。

【城内遺跡—昭和59年度発掘調査報告—】(2)

<昭和60年3月 紫波町教育委員会>

I 城内遺跡を取りまく環境

1. 位置と地形

城内遺跡は、岩手県紫波郡紫波町北日詰字城内地域に所在する。

紫波町は、岩手県のほぼ中央部、県都盛岡市の南側に位置する。町のほぼ中央部を南北に北上川が縦断し、西には奥羽山脈、東には北上山系に連なる山々がひかえる。

地形的には、西部の奥羽山脈に連なる山麓部と水分扇状地、東部の北上川東側の、北上山系に連なる山地性丘陵部、中央部の北上川西側一帯に広範囲にひろがる段丘部に大きく3区分される。

城内遺跡は、北上川の支流、滝名川の分流平沢川が南に流れを変える地点に立地する。

2. 周辺の遺跡

紫波町には、多数の縄文時代の遺跡が存在するが、その中でも幾つかの密集地区が見られる。

その一つにあたるのが、当遺跡を含む北日詰～南日詰～五郎沼～越田～犬淵にかけての地域である。詳細な分布調査を実施して遺跡の時期、性格は不明である。



城内遺跡景観



比爪館関係資料集第8号が完成しました！！

五郎沼で咲いた平成時代最後の蓮の花(H. 31. 9. 2. 平井副会長撮影)が表紙を飾り、本文126頁(カラー43頁)には研修旅行の写真も挿入されています。協力金1,000円(会員以外は2,000円)で頒布、協力金収入は会費収入に次ぐ自主財源ですので、できるだけ多くの協力をお願いします。

文化団体ひづめ館 懇話会に助成決定

生保協賛協会

紫波

生命保険協 会県協会(会

長・千崎和夫日本生命盛岡支社長)は20日、紫波町の歴史を学ぶ住民組織ひづめ館懇話会(高橋敬明会長)に本年度「元氣シニア応援



高橋敬明会長(手前右)に 通知書を手渡す依田晋事務局長

団体に對する助成活動」の決定通知書を贈った。授与式は同町日詰駅前

の依田晋事務局長が「文化の伝承につながる素晴らしい活動に役立ててほしい」と激励し、高橋会長に通知書を手渡した。本県では唯一の助成に高橋会長は「7月に予定する10周年記念シンポジウムで活用したい」と感謝した。同会は2009年7月に

結成、会員52人。会員の研究成果の月例発表会や専門家による講演会を定期開催し、樋爪氏を中心とした町の歴史を学んでいる。助成事業は生命保険協会(東京都)主催の高齢者を対象にした支援活動。本年度は全国183団体からの応募があり、50団体を助成した。

10周年記念行事のシンポジウム「平泉と並び立つ比爪の実像を探る」の事業が認定され、助成金の交付決定通知書の交付を受けたものです。

なお、サミットについては、地域づくり活動補助金の事業提案中で、3月24日(日)に提案団体のプレゼンテーションが情報交流館で行われる予定です。